

# コミュニティ防災教育 実践活動事例集

令和8年3月 内閣府（防災担当）



幼児の揺れ体験



担架を使用した防災運動会の種目



簡易トイレ設置タイムトライアル

小学1・2年生の水消火器体験



# 目次

# INDEX

## 本事例集について

1-1 コミュニティ防災教育とは	3
1-2 本事例集の目的	4

## モデル地区について

2-1 モデル地区の場所	6
2-2 事例集に掲載するモデル地区の一覧	7

## 本事例集の見方

3-1 各実践事例の見方	11
--------------	----

## 実践活動事例

CASE01 石川県立輪島高等学校	13	CASE11 中山町防災教育推進協議会	23
CASE02 枚方市樟葉南校区コミュニティ協議会	14	CASE12 西豊田学区地域支え合い体制づくり 実行委員会 plus	24
CASE03 きのくに活性化センター	15	CASE13 足柄の歴史再発見クラブ	25
CASE04 株式会社エヌ・ティ・ティ・エムイー	16	CASE14 特定非営利活動法人 Mama's Café	26
CASE05 株式会社カラーズプランニング	17	CASE15 BornBond 産れるつなぐ防災プロジェクトによる 「母子あんしん防災協議会」	27
CASE06 早稲田学区自主防災連絡協議会	18	CASE16 せんだい女性防災リーダーネットワーク	28
CASE07 一般社団法人コミスクえひめ	19	CASE17 公益社団法人中越防災安全推進機構	29
CASE08 福浦地区自主防災グループ 通称「福浦ギャルズ」	20	CASE18 公益財団法人日本サッカー協会	30
CASE09 一般社団法人石見地域循環共生協議会	21	CASE19 恵那市防災研究会	31
CASE10 久留米市コミュニティ防災教育 推進協議会	22	CASE20 静岡防災教育推進協議会	32

# 本事例集について

# 1-1 コミュニティ防災教育とは

近年、地震、豪雨、台風などの自然災害が各地で発生しており、今後も首都直下地震や南海トラフ地震などの大規模災害が懸念されています。こうした災害に備えるためには、一人ひとりが自らの生命（いのち）を守る力を身に付けるとともに、地域の中で助け合える関係を育てていくことが重要です。

その基盤となるのが防災教育です。防災教育は、災害に関する知識を学ぶだけでなく、災害時に適切に判断し、行動し、周囲と協力して生命（いのち）と暮らしを守る力を育む取組です。

今後は、防災教育を学校や一部の団体による活動にとどめず、こどもから高齢者までの幅広い世代へ広げ、地域全体で継続的に取り組んでいくことが求められます。そのためには、学校、地域住民、自治会・町内会、自主防災組織、NPO、福祉関係者、地元企業、自治体など、多様な主体が連携して取り組むことが重要です。

このように、地域全体（コミュニティ）で防災について学び、実践し、つながりを深めることを通じて、一人ひとりの防災力と地域全体の防災力を高めていく取り組みが「コミュニティ防災教育」です。多様な立場にある人々が共に参加し、学び合い、支え合うことを通じて、誰一人取り残さない地域の防災力の向上を目指します。

# 1-2 本事例集の目的

令和7年度「コミュニティ防災教育推進事業」では、全国から選出した35のモデル地区（※）において、様々な「コミュニティ防災教育」の実践活動が展開されました。

それぞれのモデル地区では、地域の特性や課題を踏まえた実践活動（防災学習会・ワークショップ、防災訓練・避難訓練、学校での授業実践など）が企画・実施され、他の地域においても参考とできる取組事例が数多く蓄積されました。

この事例集は、モデル地区における取組内容や特徴を分かりやすく紹介しています。また、本事業の推進に参画いただいたコミュニティ防災教育推進事業推進委員（※最終ページ参照）の皆様からの、モデル地区への応援メッセージも掲載しています。

この事例集を通じて、「コミュニティ防災教育」とはどのような活動・取組であるのかを知っていただき、興味・関心を持つきっかけとなれば幸いです。さらに、実際に「コミュニティ防災教育」に参加してみよう、企画してみようと思った皆様は、別冊「コミュニティ防災教育 実践に関する手引き」もご覧いただき、新たな一步を踏み出していただくことを期待しています。

※モデル地区……「コミュニティ防災教育推進事業」において、地域住民や自治会・町内会、自主防災組織、教育機関、地元企業、NPO、自治体等の多様な主体が連携・協力し、それぞれの地域における防災力の向上に資する多様なコミュニティ防災教育実践活動を展開。



新聞紙を使った防災グッズを作成



学校での自治体職員による防災教育



地域防災力の向上に資する  
「コミュニティ防災教育推進事業」  
HP

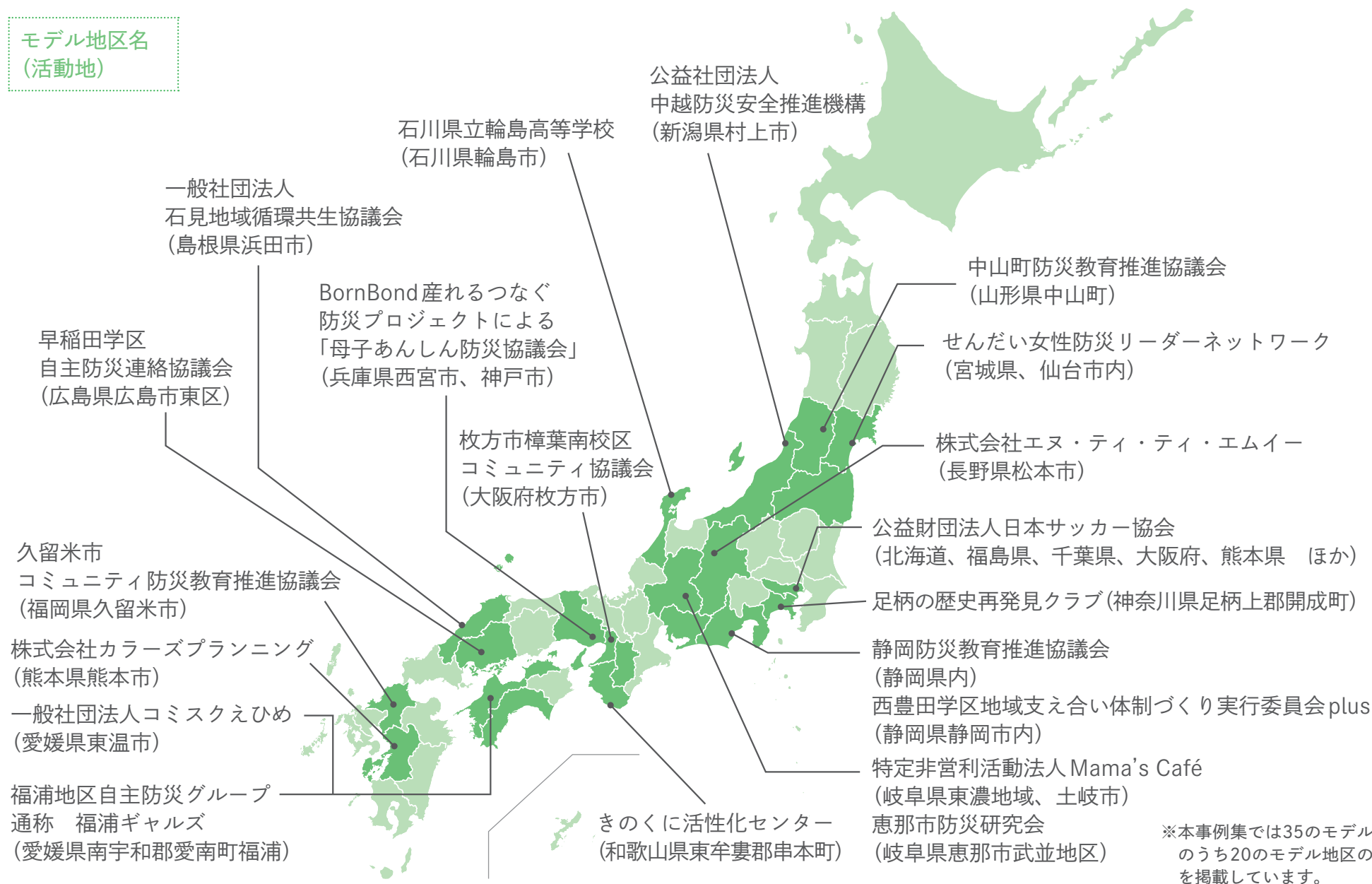


コミュニティ防災教育  
実践に関する手引き

# モデル地区について

# 2-1 モデル地区の場所

モデル地区名  
(活動地)



※本事例集では35のモデル地区のうち20のモデル地区の取組を掲載しています。

# 2-2 事例集に掲載するモデル地区の一覧

本事業はモデル地区の活動を踏まえ、以下3つのグループ分けを行いました。

グループ①：学校等教育機関等を拠点とした実践 グループ②：地域が主体となった実践 グループ③：多様性・多分野に関する実践

## ①学校等教育機関等を拠点とした実践

事例集掲載の「コミュニティ防災教育推進事業」モデル地区一覧					
CASE	モデル地区	コミュニティ形成や強化の対象		主なコミュニティ	主な取組
		担い手	参加者		
01	石川県立輪島高等学校	○	○	高校、自治体、NPO法人、地域住民	・「総合的な探究の時間」を活用した復興への取組 ・防災運動会
02	枚方市樟葉南校区コミュニティ協議会	○	○	小中学校、自治体、NPO法人、地域住民	・異なる年代を交えた防災教室 ・防災施設の見学による体験型学習
03	きのくに活性化センター	○	○	高校、自治体、自治会、地域住民	・能登半島地域の高校生を招いた地域との防災訓練 ・未災地と被災地の高校生同士の交流
04	株式会社エヌ・ティ・ティ・エムイー	○		小学校、自治体、防災士会、民間企業	・地域、災害、食を知る防災授業 ・小学生による保護者を招いた避難所運営体験
05	株式会社カラーズプランニング		○	小学校、自治体、保育園、防災士会、地域住民	・保育園を拠点とした防災を通じたコミュニティづくり ・学校と地域が連携した防災教育
06	早稲田学区自主防災連絡協議会	○		小中学校、地域団体、公民館	・自主防災連絡協議会と学校が一緒につくる防災授業 ・地域の被災箇所訪問による、災害の「自分事」化の促進

# 2-2 事例集に掲載するモデル地区の一覧

モデル地区について

## ②地域が主体となった実践

事例集掲載の「コミュニティ防災教育推進事業」モデル地区一覧					
CASE	モデル地区	コミュニティ形成や強化の対象		主なコミュニティ	主な取組
		担い手	参加者		
07	一般社団法人コミスクえひめ	○	○	高校、自治体、劇団、地域団体、地域住民	・まち歩きから考える地域防災プログラムの開発 ・演劇手法を用いて、災害時の不安を疑似体験するプログラムの開発
08	福浦地区自主防災グループ 通称「福浦ギャルズ」	○	○	小学校、自治体、地域団体、地域住民	・発災3日後対応訓練 ・発災30日後対応訓練
09	一般社団法人石見地域循環共生協議会	○	○	小学校、大学、自治体、地域団体、民間企業、地域住民	・eスポーツ×VR×備蓄・非常用発電を活用した多世代交流防災教育 ・「逃げ地図」ワークショップ
10	久留米市コミュニティ 防災教育推進協議会	○	○	小中学校、大学、自治体、地域団体、医療・福祉機関、地域住民	・7校区の特性を踏まえた防災教育 ・防災クエスト「キッズ防災士になろう！」(小学生対象)
11	中山町防災教育推進協議会		○	幼稚園、保育園、小中学校、自治体、地域団体、地域住民	・「なかやまマイ▷コミュニティ減災マップ」作り ワークショップ
12	西豊田学区地域支え合い体制づくり 実行委員会 plus		○	中学校、自治体、社協、福祉団体、地域団体、地域住民	・参加体験型避難所運営訓練・生活体験「リアルHUG」 ・福祉防災シンポジウム
13	足柄の歴史再発見クラブ		○	小学校、自治体、地域団体、地域住民	・地域の災害史を学ぶ出前授業・野外学習 ・「琵琶de防災 in 瀬戸屋敷」

## 2-2 事例集に掲載するモデル地区の一覧

モデル地区について

### ③多様性・多分野に関する実践

事例集掲載の「コミュニティ防災教育推進事業」モデル地区一覧					
CASE	モデル地区	コミュニティ形成や強化の対象		主なコミュニティ	主な取組
		担い手	参加者		
14	特定非営利活動法人 Mama's Café		○	自治体、大学、 学術機関、NPO 法人、 地域住民	・乳幼児向けの防災教育プログラムの開発 ・「はじめてのぼうさい」教室の実施
15	BornBond産れるつなぐ防災プロジェクト による「母子あんしん防災協議会」		○	自治体、周産期医療施設、 地域団体、妊産婦、 乳幼児	・妊産婦向け防災教育プログラムの作成 ・プログラムの他地域展開による防災教育の裾野拡大
16	せんだい女性防災リーダーネットワーク	○	○	自治体、大学、 地域団体、地域住民	・多世代・多主体による学び合いの実践 (防火・防災訓練の実施) ・地域連携を通じた学校・こども園での防災教育
17	公益社団法人中越防災安全推進機構	○	○	中学校、自治体、 防災士会、公益社団法人、 地域住民	・ジュニア防災リーダーによる地域住民向け防災講義の 実践 ・被災地視察を通じた災害の「自分事」化の促進
18	公益財団法人日本サッカー協会	○	○	自治体、スポーツ団体、 サッカー観戦者、地域住民	・サッカー日本代表戦等の試合会場を活用した事前防災 普及啓発 ・「防災×サッカー」によるぼうさい拠点の整備と活用
19	恵那市防災研究会	○	○	小学校、自治体、社協、 民間企業、消防団、 地域団体、地域住民	・地域・地元企業・自治体が連携した防災教育のアップ デート（再構成） ・自治体・地元企業・消防団・社協等の強みを活かした 実践的な防災訓練の実施
20	静岡防災教育推進協議会	○	○	高校、大学、自治体、 民間企業、地域団体、 地域住民	・世代を超えた防災教育の実践を通じた次世代リーダー 育成 ・災害時に機能するネットワークづくりの推進

# 本事例集の見方

# 3-1 各実践事例の見方

CASE

01

## 能登から始まる、地域とつくる防災の学び

事業名 地域資源を活かした多世代参加型コミュニティ防災教育事業  
モデル地区 石川県立輪島高等学校（石川県輪島市）

実施主体／参加者	高校／高校生、地域住民
主なコミュニティ	高校、自治体、NPO法人、地域住民
コミュニティ形成や強化の対象	担い手・参加者
主な活動場所	高校
想定災害種類	地震、津波、風水害、土砂災害等

### 活動背景

この地域は令和6年1月に「能登半島地震」、9月に「奥能登豪雨」と、1年間に2度の災害に遭いました。その中で過疎化・高齢化、インフラ復旧の遅れ等の課題が浮き彫りとなりました。

### 方向性

輪島高等学校の「総合的な探究の時間」において、令和6年度より「WAJI活」と称して地域の課題をテーマとした探究活動を行いました。本事業では、既存の「WAJI活」を活かし、防災活動の充実を図りました。

### 主な取組

#### 「総合的な探究の時間」を活用した復興への取組

週1回の探究活動（WAJI活）の中で、高校生が復興や地域の現状に対する課題発見（エネルギー・観光・地域産業等）と、課題解決に向けてのアイデアを考える授業を実施しました。授業の実施にあたり、探究活動に対する支援団体（石川県から紹介された団体「カタリバ」）の協力を得て、地域の観光協会や県外の総合建設会社などを招き、高校生が専門的な知見を活用しながら、より実践的なアイデアを検討できるよう工夫しました。

また、これまでの探究活動の成果を、高校生自身が司会や進行などを務めながら地域へ発表することで、高校生が実践的な経験を積みながら、地域全体の復興や地域の課題に対する意識を高める機会を設定しました。

#### 防災運動会

住民参加型の防災運動会を実施しました。火災を想定して身を屈めて通る防災障害物競走など、身体を動かしながら防災の知識を学ぶことができるイベントを開催しました。

### 特徴

被災時の電気の必要性を感じエネルギーの課題に取り組むなど、高校生が自らの被災経験を踏まえて主体的に解決に向けたアイデアを検討しています。さらに、地域への発表や防災イベントを通じ、平時から地域と関わり相互に支え合う顔の見える関係を育てています。



探究活動での観光協会へのヒアリング



温度差を利用した小型発電装置の制作



火災を想定し低い姿勢で動く障害物競走



担架を使用した防災運動会の種目

### 推進委員からのメッセージ

高校生が住民参加型の防災運動会等の企画・運営を主体的に実行するなど、防災意識の向上のみならず、地域の一員としての社会性の向上にもつながっています。

もっと知りたい方は  
こちら!!



- ◇実施主体／参加者  
誰が／誰に対しての取組
- ◇主なコミュニティ  
活動における主な連携先
- ◇コミュニティ形成・強化の対象  
コミュニティの形成や強化の対象を3つの中から記載
  - ・担い手
  - ・参加者
  - ・担い手・参加者
- ◇主な活動場所  
取組を行った主な場所
- ◇想定災害種類  
当該地区において想定している災害の種類

- ◇活動背景・方向性  
事業の立場から見た注目ポイントや今後への期待など

(参考)  
モデル地区の詳細な取組は、右下のQRコードからご確認ください。

◇特徴  
各事例ならではの工夫や、特に注目したいポイント

◇推進委員からのメッセージ  
推進委員の立場から見た注目ポイントや今後への期待など

IMPLEMENTATION

CASES

STUDIES

# 実践活動事例

# 能登から始まる、地域とつくる防災の学び

事業名 地域資源を活かした多世代参加型コミュニティ防災教育事業  
モデル地区 石川県立輪島高等学校（石川県輪島市）

実施主体／参加者

高校／高校生、地域住民

主なコミュニティ

高校、自治体、NPO法人、地域住民

コミュニティ形成や強化の対象

担い手・参加者

主な活動場所

高校

想定災害種類

地震、津波、風水害、土砂災害等

## 活動背景

この地域は令和6年1月に「能登半島地震」、9月に「奥能登豪雨」と、1年間に2度の災害に遭いました。

その中で過疎化・高齢化、インフラ復旧の遅れ等の課題が浮き彫りとなりました。

## 方向性

輪島高等学校の「総合的な探究の時間」において、令和6年度より「WAJI活」と称して地域の課題をテーマとした探究活動を行いました。

本事業では、既存の「WAJI活」を活かし、防災活動の充実を図りました。

## 主な取組

### 「総合的な探究の時間」を活用した復興への取組

週1回の探究活動（WAJI活）の中で、高校生が復興や地域の現状に対する課題発見（エネルギー・観光・地域産業等）と、課題解決に向けてのアイデアを考える授業を実施しました。授業の実施にあたり、探究活動に対する支援団体（石川県から紹介された団体「カタリバ」）の協力を得て、地域の観光協会や県外の総合建設会社などを招き、高校生が専門的な知見を活用しながら、より実践的なアイデアを検討できるよう工夫しました。

また、これまでの探究活動の成果を、高校生自身が司会や進行などを務めながら地域へ発表することで、高校生が実践的な経験を積みながら、地域全体の復興や地域の課題に対する意識を高める機会を設定しました。

### 防災運動会

住民参加型の防災運動会を実施しました。火災を想定して身を屈めて通る防災障害物競走など、身体を動かし楽しみながら防災の知識を学ぶことができるイベントを開催しました。

## 特徴

被災時の電気の必要性を感じエネルギーの課題に取り組むなど、高校生が自らの被災経験を踏まえて主体的に解決に向けたアイデアを検討しています。さらに、地域への発表や防災イベントを通じ、平時から地域と関わり相互に支え合う顔の見える関係を育てています。



探究活動での観光協会へのヒアリング



温度差を利用した小型発電装置の制作



火災を想定し低い姿勢で動く障害物競走



担架を使用した防災運動会の種目

## 推進委員からのメッセージ

高校生が住民参加型の防災運動会等の企画・運営を主体的に実行するなど、防災意識の向上のみならず、地域の一員としての社会性の向上にもつながっています。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 多世代の交流で高める地域のチカラ

事業名 異年齢間（地域の小学生を核とする高齢者、未就学児）の防災教室

「おじいちゃん、おばあちゃん、そして園児と小学生たち」

モデル地区 枚方市樟葉南校区コミュニティ協議会（大阪府枚方市）

実施主体／参加者

地域団体／小中学生、地域住民

主なコミュニティ

小中学校、自治体、NPO法人、地域住民

コミュニティ形成や強化の対象

担い手・参加者

主な活動場所

小中学校の教室、体育館

想定災害種類

地震、風水害、土砂災害等

## 活動背景

小学生が高校生、大人へと成長する過程で地域の防災リーダーに育つことを期待し、小学生向けの宿泊防災キャンプを十数年間続けています。

一方で、年齢層や参加者が偏るといった課題がありました。

## 方向性

小学生を中心とする方針は維持しつつ、高齢者や未就学児といった異なる年代を意図的に交えた防災教室を展開することで、地域全体の防災力向上を図りました。

## 主な取組

### 異なる年代を交えた防災教室

小学生が中心となり、高齢者や未就学児など異なる年齢層が共に参加する防災教室を実施しました。高齢者との防災教室では、小学生と高齢者を同じ地区に住むグループに分け、簡易段ボールトイレを一緒に作るなど、協力して学ぶことを意識した教室を開催しました。未就学児向けの防災教室では、小学生が主体となり、防災紙芝居や体験を通じて地震時の行動を伝えました。保育所を想定した空間で、紙芝居の場面に合わせて、実際に家具が倒れる場面を再現し、「揺れたらどうするか」「どこへ逃げるか」を園児に問いかけながら進行了しました。

### 防災施設の見学による体験型学習

小学生が防災施設を見学し、専門家による講義と体験学習を行いました。水害では、河川増水や水圧の危険性を浸水ドア開閉体験などで学び、地震では、ジオラマや消火・避難体験を通じて、発災直後からの行動や備えを体験しながら学びました。

## 特徴

同じ地区に住む小学生と高齢者が一緒になって学ぶことで、これまで関わらなかった両者が普段から挨拶を交わすなど、地域で顔の見える関係を作るきっかけになりました。

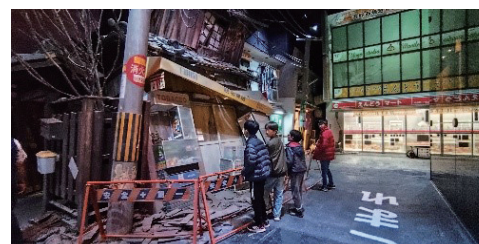
今回参加した未就学児が、将来小学生になったときに、その時の未就学児に防災を伝える側に回るという「循環」を起こすことができれば、多世代の防災教育は、長期的な地域防災力向上が期待できます。



高齢者向けの防災教室



未就学児向けの防災教室



ジオラマ（がれきの町）の体験



浸水ドア開閉体験

## 推進委員からのメッセージ

地域主体の取組で、防災を体験的に学んだ小学生が、多世代に伝える役割を担うことで、次世代の防災リーダー育成と地域の防災力向上につながっています。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 未災地から育てる、防災を担う人材

事業名 高校生をコアとした被災地と未災地の交流による地域防災力向上事業  
モデル地区 きのくに活性化センター（和歌山県東牟婁郡串本町）

実施主体／参加者	地域団体／高校生、地域住民
主なコミュニティ	高校、自治体、自治会、地域住民
コミュニティ形成や強化の対象	担い手・参加者
主な活動場所	高校のグラウンド、体育館 等
想定災害種類	地震、津波

## 活動背景

令和7年カムチャツカ半島東方沖を震源とする地震に伴う津波警報が発表されても逃げない住民が多く居り、その理由のひとつとして、避難への諦めがありました。

## 方向性

高校生に対する防災教育を実施し、地域防災を担う主体として据えることで、若い世代からの呼びかけを通じた地域住民の防災意識の向上を目指しました。

## 主な取組

### 能登半島地域の高校生を招いた地域との防災訓練

和歌山県立串本古座高校の生徒が主体となり、地域住民と協力して防災訓練を実施しました。自治体と連携した炊き出し、消火体験、避難所運営体験、簡易トイレや段ボールベッドの作成など、発災時を想定した体験を通じて高校生の実践的な学びを深めました。また、能登半島地震を経験した石川県立飯田高校の生徒による発表や両校生徒の交流を行い、若者目線での課題共有と学び合いを通じて、双方の防災力の向上を図りました。

### 未災地と被災地の高校生同士の交流

石川県珠洲市において、石川県立飯田高校と和歌山県立串本古座高校の生徒が交流を行いました。ワークショップでは、能登半島地震発生時の避難生活の実態や、若者として困ったことなどについて意見交換を実施しました。また自治体職員からは、発災直後の行政対応や避難所運営の課題について説明を受け、復興や地域の現状について相互のインタビュー形式で学びました。

## 特徴

被災地と未災地の交流や地域との協働訓練への参加を通じ、高校生が机上の学習にとどまらない実践的な防災を学ぶ場を設定しています。

また、未災地の高校生は、被災地の同世代から避難生活の現実や当時の判断、復興過程での課題を直接聞くことで、災害を自分事として捉える視点を身に付けました。



自治体（消防）と連携した消火訓練



飯田高校生からの発表



高校生同士のワークショップ



石川県珠洲市役所職員との意見交換

## 推進委員からのメッセージ

被災地と未災地の高校生をつなぎ、得られた学びと具体的な活動を通じて学校と地域をつなぐ伴走型支援は、地域における新たな関係性構築に貢献したと思います。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 企業がつなく、地域で始まる防災教育

事業名 小学校における、地域コミュニティを巻き込んだ防災教育プログラムの企画および実践

モデル地区 株式会社エヌ・ティ・ティ・エムイー（長野県松本市）

実施主体／参加者

民間企業／小学生、保護者

主なコミュニティ

小学校、自治体、防災士会、民間企業

コミュニティ形成や強化の対象

担い手

主な活動場所

学校の教室、体育館 等

想定災害種類

地震、津波、風水害、土砂災害 等

## 活動背景

小学校での防災教育は、地域特性や災害特性なども十分に考慮したうえで実施される必要があるものの、学校の先生の災害に対する専門性や、時間確保の面で実施が困難な状況でした。

## 方向性

民間企業が防災教育の専門性確保や地域間の連携を深める主体として参画し、小学校の負担軽減を図りながら、官民連携で取り組める防災教育を実施しました。

## 主な取組

### 地域、災害、食を知る防災授業

計3回の防災授業は、小学生が防災への理解を深めることを目的に実施しました。第1回では松本市防災ターミナルを訪問し、地域の防災体制や備蓄の役割を学び、第2回ではVRによる地震体験と備蓄品の使用体験を通じ、災害の怖さや避難所生活を学びました。第3回では防災食の調理・試食を行い、食の備えの重要性を考える機会としました。

### 小学生による保護者を招いた避難所運営体験

児童がこれまでの学びを踏まえ、教える側に回りました。備蓄品（簡易ベッド・トイレ等）の扱いを保護者に説明しながら、避難所の受付・誘導の流れを小学生自らが運営しました。さらに、地域の防災士会や備蓄食の企業から協力をお願いしながら炊き出しを行い、避難者役の保護者を案内する中で、役割分担やコミュニケーションの重要性を確認しました。昼食会を兼ねた交流により地域のつながりを深め、学習内容の定着と家庭や地域への波及を図りました。

## 特徴

民間企業が、教育現場や自治体等の多様な主体をつなぎ、専門性の確保、連絡調整、企画設計を担うことで、地域の特性を踏まえた新しい防災教育の実施を支援しました。

また、これらをプログラム化し、地域へ展開することで、企業に頼らず地域が自走できるような仕組みづくりにも貢献しています。



防災授業でのVR体験



防災授業での備蓄食体験



避難所運営訓練での簡易ベッドの説明



避難所運営訓練での炊き出し提供

## 推進委員からのメッセージ

防災教育を誰とどのように始めるのかという課題解決のスタートアップ支援として有効であると感じました。地域が自立した活動になる工夫が今後重要です。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 防災でつなげるコミュニティの輪

事業名 全国に伝えたい ～熊本の、熊本地震の経験者たちによる、汎用性の高いコミュニティ防災教育～  
モデル地区 株式会社カラースプランニング（熊本県熊本市）

実施主体／参加者	民間企業／小学生、地域住民
主なコミュニティ	小学校、自治体、保育園、防災士会、地域住民
コミュニティ形成や強化の対象	参加者
主な活動場所	小学校の体育館、公民館 等
想定災害種類	地震

## 活動背景

地域の防災教育を学校と地域が別々に行っている現状において、災害が発生した場合、地域において支援者と要支援者が偏り、一部の方へ負担や責任が集中し、助け合いのバランスがとれなくなる可能性があります。

## 方向性

こうした課題を踏まえ、人材や施設、地域行事等、もともと存在している地域の資源を十分に活用しながら、地域全体で支え合う汎用性の高い防災教育モデルを構築しました。

## 主な取組

### 保育園を拠点とした防災を通じたコミュニティづくり

熊本地震で大きな被害を受けた若葉校区4町内において、地域住民と新たに流入した子育て世代とのつながりを構築することを目的に、保育園を拠点としたコミュニティづくりを進めました。災害時に乳幼児や高齢者を地域全体で守ることができるよう、季節ならではの交流イベントや毎年恒例の地域行事に参加者を集め、防災要素を埋め込みながら、顔の見える関係づくりに取り組みました。

### 学校と地域が連携した防災教育

小学校（コミュニティスクール）と、地域における既存の各種団体などが連携し、児童を主な対象とした防災教育を通じて自助・共助の意識を高める取組を実施しました。高齢者や妊婦の動きを体感するための器具を身に付けて、実際にその立場になって避難所生活体験をすることで、子どもたちが地域住民に目を向け、自分たちだからできることを考える（時には支援者となる）機会を設定しました。



保育園のクリスマスイベントに住民が参加



毎年恒例の地域行事「どんどや」



地域の企業や防災士と連携した防災授業



様々な属性の避難者を体験する授業

## 特徴

日常における自治会活動や暮らしの中にあるいつもの活動の延長線上に防災を置くことで、誰もが気軽に参加でき、担い手にも負担の少ない取組を実施しています。

新たに地域に加わった子育て世代もためらいなく関われる形とし、学校、保育園などの主体や、乳幼児やその保護者、高齢者などの地域住民が、世代を超えて防災を学び合う環境を実現しています。

## 推進委員からのメッセージ

生活の中に根付く地域行事や既存コミュニティを防災という視点でゆるやかにつなぎ直すことで、学ぶ機会の創出と多様な関係性の構築に貢献をしたと思います。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 学校とつくる、地域一体型の防災授業

事業名 早稲田学区防災教育地域連携推進事業

モデル地区 早稲田学区自主防災連絡協議会  
(広島県広島市東区)

実施主体／参加者

自主防災組織／小中学生、地域住民

主なコミュニティ

小中学校、地域団体、公民館

コミュニティ形成や強化の対象

担い手

主な活動場所

小中学校の教室

想定災害種類

地震、土砂災害、火災 等

## 活動背景

平成26年8月豪雨による広島土砂災害をきっかけに、自分たちの地域が被災した地域と同様、土砂災害に対して危険な地域であることから、防災教育の取組を始めました。

## 方向性

学区の地域活動をまとめる協議会の構成団体の一つとして、平成28年度から学校での防災授業や地域を対象とした防災活動を取り組んでいます。本事業では活動の総括と共に地域との連携強化を図りました。

## 主な取組

### 自主防災連絡協議会と学校が一緒につくる防災授業

自主防災連絡協議会が先生と連携し、学区内の小学校3年生、中学生を対象に防災授業を行いました。小学校では、防災の基本的な話を聞いたうえで、地域を歩いて危険な場所や安全な場所を確認し、その結果を“あんぜんマップ”としてまとめました。中学校では、「命を守る」をテーマに複数回の授業を行い、グループワークや地域歩きを通じて、災害時に自分がどう行動するかを考え、整理する学習を行いました。

### 地域の被災箇所訪問による、災害の「自分事」化の促進

防災を身近な地域の問題として捉えることを目的として、中学生が防災授業と連動した被災箇所確認を実施しました。地域の防災士が同行し、生徒の気付きに寄り添いながら、過去の災害時の状況や地域特有の危険性について説明を行いました。普段何気なく生活している町を防災という視点で確認することで、災害を現実に起こり得るものとして認識し、自分事として捉えるきっかけとなりました。

## 特徴

授業開始の数か月前から自主防災連絡協議会と先生で打合せを行い、協力して授業づくりを進めています。双方の視点や専門性を合わせながら授業を構成し、児童や生徒への展開は日常的に接している先生が実施することで、こどもたちにとって理解しやすい形になるよう工夫していました。



自主防災組織と学校の防災授業



防災授業での地域の危険箇所等の確認



小学生による地域のまち歩き



中学生による地域の被災場所確認

## 推進委員からのメッセージ

地域と学校が互いの強みを活かして協働し防災授業に取り組むことで、児童生徒が災害を自分事として捉え、こどもと地域の防災意識の向上につながっています。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 顔の見える関係をつくり、 地域で生き抜く力を育む

事業名 共に学び共に進めるコミュニティ防災推進事業  
モデル地区 一般社団法人コムスクえひめ（愛媛県東温市）

実施主体／参加者	地域団体／地域住民
主なコミュニティ	高校、自治体、劇団、地域団体、 地域住民
コミュニティ形成や強化の対象	担い手・参加者
主な活動場所	地域の施設（公民館、神社、商店）等
想定災害種類	地震

## 活動背景

愛媛県東温市はこれまで大きな災害経験が少なく、防災意識を持ちにくい地域でした。また、隣市のベッドタウン化で昼間人口が少なく、高齢化も進んでおり、世代間の接点も少ない地域です。

## 方向性

防災を「特別な活動」にせず、日常の延長で多世代が関われる取組を重視しました。顔の見える関係を育み、体験を通じて災害を自分事として考え行動できる地域づくりを目指しました。

## 主な取組

### まち歩きから考える地域防災プログラムの開発

市内の中学生を対象に、公民館周辺や商店街、神社などを巡るまち歩きプログラムを実施しました。防災を前面に出さず、防災への関心が低かった中学生にも主体的な参加を促しました。参加した中学生には地域の昔の写真を渡し、地域住民と会話を交わしながら現在の同じ場所を探して写真を撮影するミッションを設定しました。このプログラムを通じて、地域住民と自然なコミュニケーションが生まれ、普段接点のない世代間でも災害時に自然と助け合える「顔の見える関係づくり」の第一歩となりました。

### 演劇手法を用いて、災害時の不安を疑似体験するプログラムの開発

地元の「坊っちゃん劇場」監修のもと、即興で作品を構成するデバイジングという演劇手法を取り入れ、災害時の不安や判断の難しさをリアルに体験する訓練を実施しました。地震発生後に避難所となった公民館を舞台として、停電や負傷者対応など災害発生後の混乱を具体的にイメージし、大人も子どもも迷いながら判断を重ね「自分ならどう動くか」を考えました。

## 特徴

PTA団体のOB・OGを中心とした地域団体（チームいのとん）が学校・自治体等を巻き込み担い手の輪を広げ、実践活動では地域の商店や神社など、地域の多様な主体と共に、地域で顔の見える関係づくりに取り組みました。また、坊っちゃん劇場という地域の資源を有効活用し、災害を自分事として考え行動する力を育みました。



まち歩きから考える地域防災プログラム



演劇手法を用いて、災害時の不安を疑似体験する「デバイジング防災学習プログラム」



## 推進委員からのメッセージ

地域資源や住民との関わりを活かし、中学生が主体的に学ぶ工夫が参考になります。体験型の取組が日常のつながりを育て、地域防災の力を着実に高めています。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 地域の力で「孤立」を乗り越える！ 実践型防災訓練

**事業名** 自然災害後の「孤立」を想定した福浦地区発災3日後（30日後）対応訓練の実施  
**モデル地区** 福浦地区自主防災グループ 通称「福浦ギャルズ」（愛媛県南宇和郡愛南町福浦）

実施主体／参加者	地域団体／地域住民
主なコミュニティ	小学校、自治体、地域団体、地域住民
コミュニティ形成や強化の対象	担い手・参加者
主な活動場所	地域の小学校（教室、体育館）等
想定災害種類	地震、津波 等

## 活動背景

愛媛県愛南町は南海トラフ巨大地震で10mを超える津波被害想定が出ています。その先端部に位置する福浦地区は津波やがけ崩れ等により道路が寸断され、災害時に「孤立」してしまうリスクが高い地域です。

## 方向性

地域住民が一体となって発災3日後・30日後を具体的に想定した訓練を実施し、地域特有の「孤立」というリスクに正面から向き合いました。

## 主な取組

### 発災3日後対応訓練

ライフラインが完全に途絶えた発災3日後を想定した訓練として、冒頭に能登半島視察報告を実施し、同様の地理的特性を持ち「孤立」を経験した能登半島において、発災直後トイレ問題が非常に深刻であったことを参加者全員の共通認識としました。その後、簡易トイレづくりや消臭袋を用いたにおい実験、ラップトイレの実演などを通じてトイレ問題の深刻さとその解決方法を参加者全員で学びました。

### 発災30日後対応訓練

心身の疲労が大きくなる発災30日後を想定した訓練として、能登半島地震で避難所の立ち上げ・運営に携った関係者から、発災30日後の避難生活や学校再開に向けた実情について講話を受けました。その後、被災した子どもが避難先の学校に登校する初日の場面を想定し、どのような声かけや関わりができるかを考えるワークショップを実施しました。講話と演習を通じ、厳しい状況下でも地域全体で助け合えば乗り越えられることを学びました。

## 特徴

PTA代表として参加した東日本大震災の被災地研修を契機に、地域の女性を中心として結成された「福浦ギャルズ」は、学校や自治体などを巻き込みながら、10年にわたる地道な活動継続により参加者や協力者の裾野を広げ、地域で顔の見える関係を築いてきました。こうした関係性のもとで訓練を実施することで、担い手・参加者の心の距離が近く、主体的な意見や行動を起こしやすい環境が生まれています。



発災3日後対応訓練（地区ごとに分かれての話し合い／非常時のさまざまなトイレ展示）



発災30日後対応訓練：声かけ・関わり方ワークショップ（小学生チーム／大人チーム）



## 推進委員からのメッセージ

女性グループが主体となり、防災活動を継続しています。その熱意が周囲を巻き込む原動力となっているほか、被災地訪問でさらに問題意識を高め、地域での実践に反映しています。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 先進的な防災教育を通じて、 地域コミュニティを活性化！

事業名 「スマートコミュニティ浜田」防災・減災プロジェクト  
～DX・GX・EXの力で、誰一人取り残さないレジリエントな  
共助社会をめざして～  
モデル地区 一般社団法人石見地域循環共生協議会（島根県浜田市）

実施主体／参加者	地域団体／高校生、地域住民
主なコミュニティ	小学校、大学、自治体、地域団体、民間企業、地域住民
コミュニティ形成や強化の対象	担い手・参加者
主な活動場所	地域の小学校（体育館）等
想定災害種類	地震、土砂災害 等

## 活動背景

島根県浜田市では、若者世代の流出が進む中で世代間の接点も少なくなっており、災害時に世代・立場を問わず支え合える関係づくりが課題となっていました。

## 方向性

防災を「特別な活動」にせず、地域課題への取組の中に防災の視点を組み込み、DX・GX・EX\*を融合させた防災教育を通じて、地域住民が互いに寄り合う機会を創出しました。

\* DX：デジタル技術、GX：エネルギー自立、EX：体験型の学び

## 主な取組

### eスポーツ×VR×備蓄・非常用発電を活用した多世代交流防災教育

VRゴーグルによる大地震の模擬体験（防災VR体験会）に加え、防災eスポーツを通じて「備蓄品」を探し当てる体験（DX）と、実物の備蓄品や自治体・地元企業等が実施している非常用発電（GX）に関する最新の取組の展示を組み合わせた体験型の防災イベントを実施しました。防災を前面に出すのではなく、楽しさや体験を入口とすることで参加への心理的ハードルを下げ、防災への関心が低かった層にも参加を促しました。

### 「逃げ地図」ワークショップ

災害時に避難場所までの経路を3分ごとに色分けして示した「逃げ地図」を用いて、避難困難地域や課題を視覚的に把握するワークショップを実施しました。地域の危険性や避難行動についてグループで議論する場を設けたことで、世代・立場を超えて地域住民が互いに寄り合うきっかけにつながりました。



防災VR体験会



備蓄品、非常用発電機器の展示



「逃げ地図」ワークショップ

## 特徴

防災教育を「地域のつながりを再構築する機会」と捉え、学校や自治体等と連携しながら、自然に防災への関心や参加が生まれるような仕組みづくりを進めました。その結果、防災が「特別な活動」ではなく、日常の地域活動の延長として受け止められるようになり、地域全体で防災に向き合い続ける土台づくりにつながりました。

## 推進委員からのメッセージ

目的毎にフォーラム、ワークショップ、視察等のEXを中心に有識者の協力を得て実施しました。参加者同士の交流もできた点が評価できます。学生等若年層の参加に期待します。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# プラスアルファでつながる！ 地域の防災ネットワーク

事業名 住民を中心に多様な主体と協働で地区防災計画をつくる  
コミュニティ防災教育事業

モデル地区 久留米市コミュニティ防災教育推進協議会（福岡県久留米市）

実施主体／参加者

地域団体／地域住民

主なコミュニティ

小中学校、大学、自治体、地域団体、  
医療・福祉機関、地域住民

コミュニティ形成や強化の対象

担い手・参加者

主な活動場所

地域コミュニティセンター 等

想定災害種類

地震、風水害、土砂災害 等

## 活動背景

久留米市では、中核市として多様な住民が暮らす中、それぞれの立場や意見を反映した地区防災計画を地域主体でどのようにつくっていくかが課題となっており、その手法はまだ手探りの状況でした。

## 方向性

既存の地域活動「+ a」の取組で日常の関わりが防災につながると捉え、実践的な防災教育や体験活動を通じて地域の関わりを広げ、その積み重ねを今後の地区防災計画の策定へとつなげていくことを目指しました。

## 主な取組

### 7校区の特徴を踏まえた防災教育

市内の小中学校区ごとに、地域住民や自治会、福祉・医療関係者、企業、自治体職員などが集まり、防災について話し合うワークショップを行いました。これまでの地域活動や日頃の困りごとを振り返りながら、避難所運営等の体験型の学びを通じて議論を深めました。「まず話してみる、やってみる」場としたことで、防災を身近なテーマとして考えるきっかけとなりました。

### 防災クエスト「キッズ防災士になろう！」（小学生対象）

体験型イベント「防災クエスト」を実施しました。会場では、防災クイズや火おこし体験などのブースをスタンプラリー形式で巡り、楽しみながら防災に触れる機会を設けました。土曜塾\*で学んだ子どもたちが「キッズ防災士」として案内役となり、子ども同士が教え合う場面も見られました。遊びの延長で参加できるため、防災への関心が自然と広がりました。

\*土曜塾：主に公立小・中学校が土曜日に地域住民やボランティア、大学生らの協力を得て、児童生徒に学習支援や体験活動を提供する場



体験型の学びにより幅広い層が積極的に参加できた、防災ワークショップ



地域住民や子どもたちも講師や運営に携わった、防災クエスト「キッズ防災士になろう！」



## 特徴

このモデル地区では「本業+ aプロジェクト」として、お店の店主や団体などが本業を営みながら、+ aの取組を行い地域の日常を豊かにする活動を行っています。この活動が非常時に備えることにもつながると考え、日頃のつながりの中に防災の入口を設け、誰もが参加しやすい土台を作っていたことで、実践的な防災教育や体験活動が実施できました。さらに、既存の地域組織にとらわれず、多様な者や団体をつなぐ「地域コーディネーター」を中心に、体験や対話を次の学びへとつなげています。

## 推進委員からのメッセージ

住民主体の防災ワークショップの実施を軸に、自治体がハブとなり多様な主体を巻き込む体制が参考になります。体験や対話を重ね、地域に合った防災活動を育てています。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 自分だけの 「マイ▷コミュニティ減災マップ」

事業名 中山町全世代防災教育普及事業

モデル地区 中山町防災教育推進協議会（山形県中山町）

## 活動背景

中山町は、最上川・須川の浸水想定区域に多くの住民が暮らす、災害リスクの高い地域です。町では幼稚園、保育園から中学校まで防災を学ぶ取組を進めてきましたが、地域全体への広がり課題を感じていました。

## 主な取組

### 「なかやまマイ▷コミュニティ減災マップ」作りワークショップ

学校で実施してきた防災教育を地域へ広げる取組として、「なかやまマイ▷コミュニティ減災マップ」作りワークショップを実施しました。参加者は、自宅周辺の災害リスクや避難先、避難のタイミングなどを地図に書き込みながら整理し、参加者同士で議論を重ねながら災害時の行動を具体的に想定しました。

このワークショップを通じて、参加者から出された気づきや多様な視点を反映した「なかやまマイ▷コミュニティ減災マップ」が完成しました。このマップは、地域のハザードマップに、避難所や危険個所、地域のために活動する場所をシールで貼ることができ、自分・家族・地域の行動をタイムライン形式で書き込むことができるのが特徴です。

また、参加者自ら手を動かし考えるプロセスを通じて、防災を「知識として学ぶ」だけでなく、「自分や家族ならどう行動するか」を具体的に考える参加者が増え、防災を自分事として捉え、世代や立場を超えて地域全体で支え合う意識を高めるきっかけとなりました。

## 特徴

中山町では、令和2年7月豪雨による被害を受け、翌令和3年度から園児・児童・生徒を対象とした「幼児からの切れ目のない防災教育」を実施してきました。令和7年度からは、町内の全学年で防災の授業を行っています。こうして培ってきた防災教育を地域全体へと広げ、地域住民向けに工夫して展開することで、地域に根付いた継続的な取組となることを目指しています。

実施主体／参加者

地域団体／地域住民

主なコミュニティ

幼稚園、保育園、小中学校、自治体、地域団体、地域住民

コミュニティ形成や強化の対象

参加者

主な活動場所

町内の各教育機関

想定災害種類

地震、風水害、土砂災害 等

## 方向性

これまで教育現場で培ってきた防災教育を、家庭や地域へと広げ、世代を超えて共有することで、地域全体の防災意識を高めていくことを目指しました。

なかやま  
マイ▷コミュニティ  
減災マップ



「なかやまマイ▷コミュニティ減災マップ」作りワークショップの様子

## 推進委員からのメッセージ

防災教育の普及を図るうえで、教育現場での防災教育から、家族・地域へと展開していく手法は、幅広い層へのアプローチとして、良い視点だと感じました。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# みんなで楽しく！ 避難所運営・生活のリアルを学ぶ

事業名 「楽しく主体的で共に」で広がる住民主体の地域づくり  
～参加体験型避難所運営訓練・生活体験「リアルHUG」の実践モデルの構築～

モデル地区 西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会 plus  
(静岡県静岡市内)

実施主体／参加者

地域団体／地域住民

主なコミュニティ

中学校、自治体、社協、福祉団体、  
地域団体、地域住民

コミュニティ形成や強化の対象

参加者

主な活動場所

地域の指定避難所（学校体育館等）

想定災害種類

地震、津波、風水害 等

## 活動背景

西豊田学区は、人口2万人を超える静岡市内でも規模の大きい学区である一方で、防災訓練の参加者が固定化し、住民が主体的に関わる避難所運営や実践的な備えが共有されにくいという課題がありました。

## 方向性

既存の「HUG\*」を進化させ、参加者全員が避難所の運営や生活をリアルに体感できる「リアルHUG」とすることで災害時の実践的な対応力を高めました。

\* HUG（避難所運営ゲーム）：静岡県が開発した、カードを使って机上で避難所運営を疑似体験できる防災教育ツール

## 主な取組

### 参加体験型避難所運営訓練・生活体験「リアルHUG」

既存のHUG（避難所運営ゲーム）を、実際の避難所となる空間で行う体験型訓練「リアルHUG」として発展させました。災害時に避難所となる体育館を会場に、参加者全員で避難所設営から運営、生活までを体験する構成とし、「避難者はゲストではなくキャスト」を合言葉に、それぞれが役割を持って行動しました。状況が次々と変化する中で考え、動く経験を重ねることで、避難所運営を「知っていること」から「いざという時に実際に動けること」へとつなげました。

### 福祉防災シンポジウム

「リアルHUG」の実践を振り返り、学びや課題を共有する場として福祉防災シンポジウムを開催しました。要配慮者支援や福祉現場の視点を交えながら、被災地での避難所運営の実態や課題から住民主体の避難所運営に福祉の視点をどう組み込むかを参加者の体験や声をもとに整理し、取組を地域内外へ広げていく視点を共有しました。



リアルHUG：情報班の対応



リアルHUG：停電を想定した暗所での対応



リアルHUG：福祉避難スペースの設営



福祉防災シンポジウム

## 特徴

「リアルHUG」では実際の避難所となる空間を使い、設営から生活までをリアルに体験することで、訓練で得た学びを災害時にそのまま活用することができます。また、参加者全員が避難所を運営する「キャスト」となるため、世代や立場を超えた交流が実現し、地域住民が一体となって楽しみながら防災力を高めることができます。

## 推進委員からのメッセージ

避難所運営において住民はキャストであるという意識を高く持った訓練で、振り返りのシンポジウムも学びを深める場として参加者層が幅広く、印象的でした。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 地域の歴史を学び、語り継ぐことで 防災意識を高める！

事業名 地域の歴史・食文化を通じた防災への備え学習  
モデル地区 足柄の歴史再発見クラブ（神奈川県足柄上郡開成町）

実施主体／参加者

地域団体／地域住民

主なコミュニティ

小学校、自治体、地域団体、  
地域住民

コミュニティ形成や強化の対象

参加者

主な活動場所

地域の小学校、古民家 等

想定災害種類

地震、風水害、火山 等

## 活動背景

開成町は過去の被災と復興の歴史や教訓が語り継がれてきた地域です。一方で、人口増加により地域の災害史を知らない住民も増えており、防災意識の浸透に課題を感じていました。

## 方向性

地域に残る歴史や文化を切り口に、こどもから大人までが地域の災害の記憶に触れ、家庭や地域で語り合う機会を設けることで、地域への理解を深めると共に防災意識の醸成を目指しました。

## 主な取組

### 地域の災害史を学ぶ出前授業・野外学習

富士山噴火や酒匂川洪水など、地域で実際に起きた災害を題材に、小学校での出前授業と現地での野外学習を実施しました。歴史と実際の場所を結びつけて学ぶことで、児童が地域の災害リスクを具体的に理解し、先人の治水の知恵や復興の歩みを身近に感じる機会としました。

### 「琵琶de防災 in 瀬戸屋敷」

地域の古民家を会場に、防災公演と災害史をまとめたパネル展示を実施しました。防災公演では、瀬戸屋敷の蔵を会場として関東大震災や富士山噴火など地域に伝わる災害の実話を題材に、琵琶と大太鼓による臨場感ある演奏や暗転など体感型の演出を組み合わせ、参加者は被災状況を疑似体験しました。

パネル展示では、地域の過去の被災と復興の歴史を展示し、防災公演参加者が近隣の災害史に目を向けることで、防災意識を高めるきっかけづくりとなりました。



小学生を対象とした地域の災害史を学ぶ出前授業・野外学習



「琵琶de防災 in 瀬戸屋敷」：防災公演



## 特徴

地域に伝わる災害の歴史や文化を学びの軸としたうえで、単に知識を伝達するだけでなく、現地での野外学習や防災公演により体験として記憶に残る形で、知識の定着を図りました。特に防災公演では演奏や暗転等の演出で、参加者の感情や想像力に訴え印象に残るものとなりました。本取組により、地域住民が災害をより身近に感じるきっかけとなり、地域全体へ防災意識が広がることを目指しています。

## 推進委員からのメッセージ

郷土史研究グループを母体としていますが、そこでの知見をうまく文化的な要素と組み合わせることで防災に関心が薄い層への波及を図っています。特に古民家と琵琶や太鼓の組み合わせは秀逸です。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 親子で楽しく、防災を学ぶ!

事業名 乳幼児向けオリジナル「防災プログラム」の開発と実施

モデル地区 特定非営利活動法人Mama's Café

(岐阜県東濃地域、土岐市)

実施主体／参加者

NPO法人／保護者、乳幼児

主なコミュニティ

自治体、大学、学術機関、NPO法人、地域住民

コミュニティ形成や強化の対象

参加者

主な活動場所

地域の子育て支援拠点 等

想定災害種類

地震、風水害、土砂災害 等

## 活動背景

岐阜県東濃地域では、小学生以上を対象とした防災の取組は多く見られますが、乳幼児とその保護者向けの防災教育はほとんど行われていない状況でした。妊婦や乳幼児は災害時に特に配慮や支援が必要となる一方で、防災の情報や支援が届きにくいという課題もありました。

## 方向性

乳幼児と保護者が楽しく学べる複数のアクティビティを組み合わせたプログラム「はじめてのぼうさい」を作り、こども園やこども食堂など、身近な場所から広げていくことを目指しました。

## 主な取組

### 乳幼児向けの防災教育プログラムの開発

プログラムのキャラクターは、可愛いだけではなく、防災分野の専門家の助言を取り入れて作成しました。乳幼児にも「わかりやすい日本語」での表現と、こどもが楽しく参加できる工夫も意識して開発しました。

### 「はじめてのぼうさい」教室の実施

「ぼうさいエプロンシアター」や「揺れ体験」などの体験型のプログラムを実施しました。エプロンシアターでは、防災グッズを人形に見立てて紹介し、こどもが親しみを持ちながら学べるように工夫しました。

また、「ペンライト作り」では、市販のボトルにビーズと水を入れて制作し、部屋を暗くしてから明かりを点けることで、明かりの大切さを体感できるようにしました。こどもの興味を引き出しながら、自然に防災を学べるよう工夫しました。

## 特徴

こどもが楽しみながら防災を学べるように、年齢や発達に合わせて組み合わせられるプログラム設計にしました。こども食堂や子育て支援施設で実施することで、外国にルーツをもつ親子など、多様な者にも届けられるプログラムになりました。



ぼうさいエプロンシアターの実演



ペンライト作成後の暗闇体験



揺れ体験の様子



自分を守るごっこ遊び

## 推進委員からのメッセージ

乳幼児の生きる力と吸収力を信じて作成された教材の数々。こどもを守るといった共通の目的のために、親同士が協力して取り組むことで、平時からのつながりが生まれます。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 地域で妊産婦のいのちを守る防災教育

事業名 妊産婦の命と暮らしを守る地域防災教育モデル事業  
～周産期医療施設を核とした共助型防災教育の推進～  
モデル地区 BornBond産れるつなぐ防災プロジェクトによる  
「母子あんしん防災協議会」（兵庫県西宮市、神戸市）

実施主体／参加者

地域団体／妊産婦、乳幼児

主なコミュニティ

自治体、周産期医療施設、地域団体、  
妊産婦、乳幼児

コミュニティ形成や強化の対象

参加者

主な活動場所

助産所、産婦人科クリニック 等

想定災害種類

地震

## 活動背景

妊産婦や新生児は災害時に特に配慮が必要です。

一方、妊娠期から産後にかけては社会的に孤立しやすく、防災情報や支援につながりにくい状況があります。

## 方向性

妊産婦向けの防災教育プログラムを通じて、地域の周産期医療施設を起点に防災教育を行い、妊産婦やその家族が安心して子育てを続けられる災害に強い地域づくりを目指しました。

## 主な取組

### 妊産婦向け防災教育プログラムの作成

プログラムでは、導入時に過去の災害映像を用い、災害を自分事として捉えました。続いて、「発災直後の命を守る行動」をテーマに、自宅・外出時を想定し、乳幼児を抱えたままの安全姿勢や、緊急地震速報を合図にその場でどう動くかを体験し、発災直後に取るべき行動を具体的に示しました。

次に、「被災後の生活や育児に必要なもの」として、防災グッズカードで避難時の持ち出し品をグループで検討し、家庭ごとに必要な物の違いを共有、さらにヒートパック等を実際に触れて試し、普段から使い慣れておく重要性を学びました。

また、在宅避難や地域支援を取り扱った妊産婦向けの防災動画教材（4分程度）を10本制作し、自宅学習の教材として提供しました。

### プログラムの他地域展開による防災教育の裾野拡大

周産期医療施設3か所を中心に、作成したプログラムを配付し、妊産婦とその家族を対象に実践しました。

## 特徴

「聞いて学ぶ防災」ではなく、「自分で動ける防災」を重視した取組です。映像による自分事化、実地シミュレーション、防災グッズの実演体験などを通じて、参加者が身体で行動を身に付けていました。

さらに、助産師や参加者同士が顔の見える関係を築くことで、平時から支え合う地域のコミュニティ形成につなげます。



外出時に発災直後の安全姿勢をとる様子



避難時の持出品を話し合う様子



ヒートパックの利用体験



妊産婦や乳幼児向けの防災グッズ

## 推進委員からのメッセージ

参加した妊産婦さんや赤ちゃん連れのご家族が、どう備えればよいか具体的なイメージを持ち帰り、「これならできそう」というヒントを得られるプログラムとなっています。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 女性がつくる輝ける地域の未来

**事業名** 女性が力を発揮するコミュニティ防災教育の推進を通じた  
防災人材育成  
**モデル地区** せんだい女性防災リーダーネットワーク（宮城県、仙台市内）

実施主体／参加者

地域団体／地域住民

主なコミュニティ

自治体、大学、地域団体、地域住民

コミュニティ形成や強化の対象

担い手・参加者

主な活動場所

こども園、小学校、社会教育施設 等

想定災害種類

地震、津波、風水害、土砂災害 等

## 活動背景

東日本大震災の教訓を踏まえ、仙台市では地域ぐるみでの防災力向上と、次世代の地域防災人材育成が進められていました。一方で、地域防災活動では女性や子育て世代の参画が広がりやすく、学校・家庭・地域をつなぐ継続的な学びが課題となっていました。

## 方向性

女性防災リーダーを中心に、学校、地域、大学等が連携し、こどもから大人まで多様な世代が平時から地域で「顔の見える関係」を育むことを目指しました。

## 主な取組

### 多世代・多主体による学び合いの実践（防火・防災訓練の実施）

小中学生、保護者、地域住民が共に参加する合同防災訓練を行い、年齢や立場の異なる参加者が協力して学びました。防火・防災訓練では、中学生が運営補助や誘導役を担い、小学生や地域住民が体験型訓練に参加するなどして、それぞれの役割を意識した取組としました。女性防災リーダーが全体の調整役となり、参加者同士が顔の見える関係を築きながら、地域で支え合う防災を学ぶ機会となりました。

### 地域連携を通じた学校・こども園での防災教育

小学校やこども園で、地域特性を踏まえた防災教育や防災訓練を実施しました。小学校では、洪水ハザードマップを活用した授業を通じて、地域の災害リスクや避難行動を学び、配布した防災パンフレットを家庭に持ち帰り保護者との対話につなげました。こども園では、園児の避難行動を中心とした訓練を行い、教職員や保護者と意見交換することで、日常の備えや声かけを見直すきっかけをつくりました。

## 特徴

女性防災リーダーが調整役となり、学校・地域・大学等をつなぎ、多世代・多主体が学び合うコミュニティ防災教育を進めた取組です。防災訓練を「人材育成の機会」として位置づけ、こども園・小学校・中学校からの学びを家庭や地域へ波及させながら、平時からの「顔の見える関係」と災害時に機能するネットワークづくりにつなげました。



合同防災訓練の様子



小学校での防災授業の様子



こども園での防災訓練の様子

## 推進委員からのメッセージ

女性たちが災害時の復旧、復興、まちづくりに参画することを目指し、学び、仲間をつくり、実践を繰り返しながら事前防災に取り組んでいます。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 中学生防災リーダーが防災の先生に!?

**事業名** 中学生が地域の防災の普及啓発の担い手となる  
ジュニア防災リーダー養成・実践事業

**モデル地区** 公益社団法人中越防災安全推進機構（新潟県村上市）

実施主体／参加者

公益社団法人／中学生、地域住民

主なコミュニティ

中学校、自治体、防災士会、  
公益社団法人、地域住民

コミュニティ形成や強化の対象

担い手・参加者

主な活動場所

生涯学習推進センター 等

想定災害種類

地震、津波、風水害、土砂災害 等

## 活動背景

この地域では、防災講座の参加者が固定化しており、子育て世代など日頃地域活動に参加しにくい世代へどのように防災の大切さを届けるかが課題となっていました。

## 方向性

中学生が地域防災の「聞き手」から「担い手（ジュニア防災リーダー）」として防災を学び、その学びを家族や地域住民へ伝えることで、世代を超えた防災意識の向上を図ることを目指しました。

## 主な取組

### ジュニア防災リーダーによる地域住民向け防災講義の実践

これまでの取組で育成されたジュニア防災リーダーが、学校の文化祭・地区の区長会・防災士会の場で講師を務める機会をつくり、「水害時の避難行動」や「ハザードマップの見方」、「避難情報（警戒レベル）」について防災講演を実施しました。中学生が行う防災講義は、地域住民にとって想像以上に受け入れられやすく、「孫やこどもの話なら耳を傾けたい」という心理的効果から多世代の関心を惹きつけました。その結果、地域住民も中学生の真摯な姿勢に心を動かされ「共に防災を考える空気」が自然と地域に広がりました。

### 被災地視察を通じた災害の「自分事」化の促進

令和4年の新潟県北豪雨で甚大な被害を受けたものの一人の犠牲者も出さなかった小岩内集落を訪問し、被災の様子を実際に見学しました。集落の方から「孫に言われて逃げようと思った」といった話を直接聞くことで、中学生たちが、「自分たちでも大人の心を動かせる」という実感を得ました。



村上市地区区長会にて、地域のリーダー（区長）中学生による防災講演を実施する様子



中学生が新潟県北豪雨後の被災地を訪問し、地域住民と意見交換を実施する様子



## 特徴

中学生が防災知識を身に付けるだけでなく、地域住民に向けて自分の言葉で防災を発信する経験を通じて、自信と意欲を育む点が特徴です。

こうした成長は学校側の理解と協力にもつながり、ジュニア防災リーダーの募集から防災講演の実施まで、継続的な支援体制の構築につながっています。

## 推進委員からのメッセージ

ジュニア防災リーダーである孫やこどもの声が、大人の心を動かします。世代を超えて防災意識・実践が広がるこれからの新しい地域モデルです。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 遊びと学びのよりどころを 広げるネットワーク

事業名 サッカーを通じた防災コミュニティ構築推進事業  
モデル地区 公益財団法人日本サッカー協会  
(北海道、福島県、千葉県、大阪府、熊本県、他)

実施主体／参加者

スポーツ団体／地域住民・観戦者

主なコミュニティ

自治体、スポーツ団体、  
サッカー観戦者、地域住民

コミュニティ形成や強化の対象

担い手・参加者

主な活動場所

防災拠点・サッカー施設

想定災害種類

地震、津波、風水害、土砂災害 等

## 活動背景

災害時には、こどもが安心して過ごせる居場所が失われやすく、心身の不調につながるおそれがあります。そのため、災害発生時にもこどもが安心して過ごせる居場所を、平時から地域の中で築いておくことが重要な課題となっています。

## 方向性

全国に点在する日本サッカー協会のネットワークを基盤に、サッカーを通じて、平時は学びと交流、非常時はこどもの居場所づくりへ変化する「全国ネットワーク活用型の支援モデル」の構築を目指しました。

## 主な取組

### サッカー日本代表戦等の試合会場を活用した事前防災普及啓発

日本代表戦などが実施される大規模会場では、「サッカー観戦時に地震が起きたら、あなたはどうする？」や「災害に備え準備していること」等のテーマの付箋を使ったワークショップを行い、来場者が短い時間でも平時での備えを見直すきっかけを生み出しました。

### 「防災×サッカー」によるぼうさい拠点の整備と活用

また全国各地のぼうさい拠点に「トレーラーハウス」や移動式コートの「キッズピッチ」を配置し、キッズピッチでサッカーを楽しみながら、トレーラーハウスで過去の災害の教訓を映像や展示で伝え、親子がサッカーを通じて事前に備える必要性を実感できる環境を整えました。

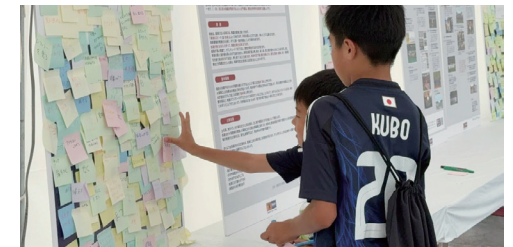
## 特徴

全国に広がる日本サッカー協会のつながりが、防災の学びと交流をこどもから地域の大人まで、日常に根づかせていく取組です。非常時にも同じ基盤でこどもの居場所を作り出せる点が頼もしく実効的です。

サッカーをきっかけに、こどもたちが自然に楽しく防災に触れられる環境を提供することで、防災を身近なテーマとして考えるきっかけとなりました。



元選手とワークショップを実施している様子



付箋を使ったワークショップに参加している様子



トレーラーハウスとキッズピッチ



親子で学ぶ防災教育映像

## 推進委員からのメッセージ

災害時、こどもたちは大人を気づかい我慢を強いられます。スポーツの力と全国に持つネットワークを活かし、「こどものこころの復興」を応援しています。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 世代や立場をこえて みんなで「攻めの防災教育」づくり

事業名 世代・主体を包摂した社会連携防災教育の構築  
—企業参画による実証事業—

モデル地区 恵那市防災研究会（岐阜県恵那市武並地区）

実施主体／参加者

地域団体／小学生、PTA

主なコミュニティ

小学校、自治体、社協、民間企業、  
消防団、地域団体、地域住民

コミュニティ形成や強化の対象

担い手・参加者

主な活動場所

小学校 等

想定災害種類

地震、風水害、土砂災害、火災 等

## 活動背景

約15年間、小学校を中心に防災教育を続けてきましたが、長期化により内容が似通ってきました。また学校と一部の地域団体で支える体制には限界があり、防災教育に関わる者を広げることが課題となっていました。

## 方向性

従来の「学校×地域」の協働に加え、地元企業など多様な主体を巻き込み、それぞれの強みや地域資源を活かすことで、防災教育をより実践的で主体的な学びへと見直すことを目指しました。

## 主な取組

### 地域・地元企業・自治体が連携した防災教育のアップデート（再構成）

毎年地域の小学校にて開催している防災スクールを、地元企業や消防団、自治体と連携して再構成しました。低学年は煙体験や消火器体験、中学年は起震車体験や、タブレットでハザードマップを調べて避難行動を考える学習を実施しました。高学年はドローン映像で通学路や危険箇所を立体的に確認し、避難所設営にも挑戦しました。さらに高齢者体験を取り入れ、避難所に集まる多様な人を想定して運営を考える学びとしました。

### 自治体・地元企業・消防団・社協等の強みを活かした実践的な防災訓練の実施

これまでの学校で行われてきた受動的な防災教育から一歩進め、こども自身が考え、判断し、行動することを重視した実践的な学習プログラムを導入しました。地域の多様な主体が連携し、炊き出し体験など災害対応を想定した活動に取り組み、役割分担や手順を話し合いながら進めることで、地域の災害リスクを日常生活と結びつけて捉え、こどもたちが主体的に行動する姿勢が育まれました。

## 特徴

地元企業との連携により、防災教育のマンネリ化を防ぐと共に、企業の従業員と児童、防災士が関わる機会が生まれ、実際の防災訓練を通じて、地域において顔の見える関係を築くことができ、企業が地域の一員として防災に関わることで、コミュニティのつながりがより強まっています。



低学年（小学1・2年生）に消火器体験



高学年（小学5・6年生）による避難所設営



企業と児童が協力して地元のお米で炊飯



企業のキッチンカーによる温かい炊出し

## 推進委員からのメッセージ

ドローン・炊き出し・避難所運営まで、企業・地域・学校が一体となり、防災教育をアップデート！こどもが主役で学び、地域の防災力を底上げします。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 大人が後押し！ 若者が発想する未来の防災力

事業名 静岡防災教育ネットワーク構築事業  
モデル地区 静岡防災教育推進協議会（静岡県内）

実施主体／参加者	地域団体／企業・学生・住民
主なコミュニティ	高校、大学、自治体、民間企業、地域団体、地域住民
コミュニティ形成や強化の対象	担い手・参加者
主な活動場所	防災総合センター 等
想定災害種類	地震、津波 等

## 活動背景

静岡県では南海トラフ巨大地震が想定されており、平時から地域全体で主体的に行動できる防災力の向上が求められています。一方で、防災教育は学校・地域・企業・自治体ごとに分散して実施されており、災害時に機能する連携関係を平時に築けていないことが課題となっていました。

## 方向性

産官学民が連携し、高校生から企業・地域住民まで世代を超えた防災教育を展開することで、さまざまな立場・年代の人が顔の見える関係になり、災害時に実際に機能する防災ネットワークの構築を目指しました。

## 主な取組

### 世代を超えた防災教育の実践を通じた次世代リーダー育成

高校生や大学生が主体となり、防災を学び、企画し、実践する「世代を超えた防災教育」を実施しました。高校生は大学生の伴走支援を受けながら、防災の基礎や地域課題を学び、未就学児や児童向けの防災講座を企画・実践しました。学ぶ側から教える側へと役割を広げることで、防災を自分事として捉え、主体的に行動する次世代の防災人材育成につながりました。

### 災害時に機能するネットワークづくりの推進

能登半島地震や豪雨災害の被災地での研修・ボランティア活動を通じ、被災者の声や復興の現状に触れる実践的な学びを行いました。さらに、企業・地域住民向けの防災リーダー研修や、産官学民が集う「静岡BOSAI Edu EXPO 2026」を通じて、分野や世代を超えた交流と連携を促進し、災害時に機能するネットワークづくりを進めました。

## 特徴

特定の世代や分野に限定せず、高校生から企業人、地域住民までを一つのネットワークでつなぎます。学習、被災地での実践、イベントでの共有を通じて、防災を「知識」として学ぶだけでなく、「行動」や「関係性」として身に付ける取組となっています。

また、参加者一人ひとりが主体的に関わり、次世代を担う若者たちを伴走的に支えながら防災に取り組むことも大切にしています。



高校生が大学生から防災の基礎を学ぶ様子



被災地でのボランティア活動の様子



EXPOでの活動発表の様子



EXPOでの参加者集合写真

## 推進委員からのメッセージ

高校生・大学生・企業・地域がつながる、次世代防災リーダー！単なる学びを超えた、災害時にも機能するネットワークづくりを目指しています。

もっと知りたい方は  
こちら!!



# 事例集の作成にご協力いただきました推進委員の皆様

(五十音順、○：グループリーダー、敬称略)

## グループ①

### 学校等教育機関等を拠点とした実践

- 竹内 裕希子 熊本大学副学長、熊本大学大学院先端科学研究部教授  
森本 晋也 岩手県立図書館長、岩手大学地域防災研究センター客員教授  
吉門 直子 土佐市教育委員会 教育長

## グループ②

### 地域が主体となった実践

- 駒井 公 社会福祉法人全国社会福祉協議会 総務部 全国災害福祉支援センター  
○澤田 雅浩 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 准教授  
中澤 幸介 株式会社新建新聞社 取締役専務 リスク対策.com 編集長  
諸留 逸 トヨタ自動車株式会社 社会貢献部 企業・車文化室 会館1G グループ長

## グループ③

### 多様性・多分野に関する実践

- 小山内 世喜子 一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと 代表理事  
○木村 玲欧 兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授  
吉田 穂波 神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科 教授





